

園名 キッズハーモニー・かなまち

2025年12月16日（火）

【 シャボン玉で遊ぼう！ 】

◎活動のねらい 身の回りにあるものを使って、シャボン玉を試す。



◆ 探求を深めるための導入として、シャボン玉サイエンスショーを開催。科学的興味を喚起し、自ら試したくなる意欲が高まった。



◆ 保育室にあるもので、シャボン玉をつくってみよう！
『ねー！これはどうかな？』
『わたし、10こ、みつけた！』



◆ みんなのおうちの中にもあるかも？！
それぞれのひらめきで様々な素材が集まった。

◆ ペットボトルに穴をあけよう！
何個開けてみる？『100こ！あけたい！』
穴がたくさんだとどうなるのかな？



◆ 『ちっちゃいのがいっぱい！』



◆ 『おもしろい！まくの中でストローがうごくよ！』



【環境をデザインする】

・準備したもの シャボン玉液・シート・暗幕
身の回りのある道具や物、容器等

- ☑ 科学のおもしろさ不思議さを感じ、探求を深める導入として、サイエンスシャボン玉ショーを設定。
- ☑ 自らの生活と結びつけられるよう、家庭と連携し、素材を持ち寄る協力をお願いした。

【気づき・振り返り】

サイエンスショーでは、様々な現象を視覚、感覚的に体験でき、主体的な探求の動機づけとなった。“試してみたい”素材を探す、持ち寄る活動は、子どもの好奇心を掻き立てることにつながった。息の吹き方（遠近・強弱）、液のつけ方や量等、その子なりの考えで繰り返し試したり、友だちを見て、展開していく姿が見られた。自分のイメージした通りに出来た時の嬉しそうな笑顔が印象的だった。

園名 キッズハーモニー・かなまち

2025年12月17日（水）

【 シャボン玉で遊ぼう！ 】

◎活動のねらい どうしたら大きなシャボン玉ができるのか、友だちと考えながら試す。



◆ 風の向きを確かめる方法は？
木々の枝が揺れる方向を見たり、
風が顔に当たるのを感じたり。
風をとらえると・・・
『みてー！！かぜがふいたら
勝手にとんでいった！でか』



◆ そーっと・・・ね。
この膜ができれば準備OK
『まくがぼよぼよしてる！』



◆ 『両手より片手の方がいい！』
『うしろ歩きでやってみよう』
ゆっくり後ろ向きで歩くと、長細
くて大きなシャボン玉が完成！
手首の角度も考えていた。

◆ お皿の中にも大きなシャボン玉。
『シャボン玉とシャボン玉がくっついた！』



◆ 『いっぱい、混ぜるのがいいのかも！？』
『おへやがいっぱい！』
『100こ！1000こ！』

【環境をデザインする】

- ・準備したもの シャボン玉液・トレイ・ストロー
バブルリング（大・小）・絵の具
- ☑ 十分な広さがあり安全に体を動かせる場所を選び、
十分に試行錯誤できるよう環境設定する。
- ☑ 色への関心が発展できるように、絵の具を用意する。

【気づき・振り返り】

広いところじゃないと、大きなシャボン玉はできないかも？
という考えと、リングを“下から上へ”動かすとたくさんの
空気を集めることができるというショーの中での気づきを
知識として探求を深めていく様子が見られた。
大きなシャボン玉は、陽の光に反射する七色が徐々に透明
になっていく性質がわかりやすかったり、高く飛んでいく
様が観察しやすく、共感できる場面が多くあった。
より大きくと並行して、小さいけれどたくさんの集合体の
シャボン玉が楽しくなり、友だちと見せ合ったり、競い合
う姿もあった。色への疑問を次の活動につなげていく。

園名 キッズハーモニー・かなまち

2025年12月23日（火）

【 シャボン玉で遊ぼう！ 】

◎活動のねらい 自分なりの発想を広げながら、シャボン玉アートを楽しむ。



◆ 窓から入る陽の光で、見え方の変化に気づいた。『みてみて！なんか光ってきれいなんだけど！！』色が徐々に混ざり合ったり、重なり合うことを試しながら、感じたことを言葉で伝え合っていた。



◆ 口をつけたり、離れたりと、息の吹きこみ方を自分なりに試す中で、表現と操作を結びつけて考える姿も。



◆ アート用紙は、好きなカタチに抜き取って、玄関掲示板の周囲に飾った。丸形パンチで抜くとまるでシャボン玉が蘇ったみたい。
『もっと、たかいところにとぼそう！！』背伸びをして“より高く”を再現していた。

【環境をデザインする】

- ・準備したもの シャボン玉液・トレイ・絵の具
白画用紙・ペットボトル（穴をあけたもの）
- ☑自分なりの発想を広げながら表現を楽しめるよう、活動時間は、十分に確保する。
- ☑色の組み合わせが自由に楽しめるよう、容器は多めに用意する。

【気づき・振り返り】

一人ひとりが発見を楽しみながら表現する姿が見られた。同じ素材なのに表れ方が異なることに気づき、それぞれの違いを面白さとして受け止めていた。シャボン玉をテーマにした本活動では、子どもたちのつぶやきや発想を丁寧に拾い上げながら、主体的に考え、感じ、表現するという探求のプロセスを積み重ねることができた。今後も、身近な環境を活かし、子どもの『やってみたい』を起点に探求を深める保育を大切にしていきたい。